

家電や工場 遠隔操作

インタラクティブラボラトリー沖縄

制御システム開発

スマホなど利用 節電、防災機能も

システム開発のインタラクティブラボラトリー沖縄（うるま市、嘉数岩夫社長）は、インターネットを経由して「モノ」を遠隔管理するIoT（インターネット・オブ・シングス）の技術を活用したサービスを昨年12月から始めた。外部からスマートフォンなどで住宅の家電やガスなどを制御できるため、節電や防災の機能もある。農業や工業、観光などさまざまな産業分野への活用を見込み、顧客の業務効率化につなげる。

IOTを活用したサービスは①電気消費などを制御するスマートハウス②業務用センサー・コントロールシステム③デジタルサイネージ（電子看板）④3Dプリンタ製品試作⑤LED照明



明開発・販売の五つの事業を柱にしている。

スマートハウス事業では、冷蔵庫やエアコンなどの家電、電気消費量、ガスなどが屋外からスマートフォンなどで遠隔管理できる。嘉数社長は「冷蔵庫の温度や湿度、何が入ってるかも管理できる。家に帰る直前にエアコンを稼働して部屋を暖めておくこともできる」と利点を説明した。産業分野では、常に温度や湿度などを管理する農業や、加工メーカーの工場機器などでの活用を見通す。デジタルサイネージで表示する画面も操作できる。同社は1月中にもIoT技術を活用したサービスの提供を初めてFMうるま

用語

IoT Internet of Things (インターネット・オブ・シングス)

の略称名。従来はパソコンやプリンタなどのIT機器をインターネットを介して接続していたが、それら以外の家電やペット、植物などの「モノ」を接続する技術を示す。通信機能を内蔵したITタグをモノに設置するなどして、パソコンやスマートフォンで遠隔管理ができる。商品やサービスの可能性を大幅に広げるため、近年国内外で注目を集めている。

（うるま市）に対し実施する。同社の通信所の電気系統を遠隔操作できるように通信機器を内蔵した機器を設置し、台風などの災害時に備える。停電時には電気系統を外部から切り替えることができる。

インタラクティブの武田政樹会長は「観光産業も含め、企業からIoTの技術をいかに活用するかという案がほしい。今は内蔵する機器も安値になっているため、小規模零細企業でも活用が可能だ」と話した。問い合わせは同社ホームページのメールアドレスまで。（長嶺真輝）

隠れた

OTS

北部東

沖繩ツーリスト（那覇市、東良和会長）が運営す



民連携による資金調達のマスタープランをまとめると

専門員